

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
3	川崎市立東門前小学校	北 良介

学校教育目標	今年度の重点目標
○自分で考える子(知) ○やさしく思いやりのある子(徳) ○心も体も元気な子(体)	①一人一人へのきめ細やかな学習の保証 ・授業改善(主体的、対話的な深い学び) ②児童の心身の健全な育成 ・人権尊重教育の推進 ③一人一人に寄り添う児童理解と支援体制の確立 ・安定した学級経営 ④今日的課題への取り組みの推進 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・GIGAスクール構想の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導	◎授業力向上と校内研究の推進 ・言語活動、表現活動の充実 ・学習指導要領の理解と評価研修 ◎一人一人へのきめ細やかな学習の保証 ・習熟度別学習の推進 ・交流の在り方の検討	○校内研究は、本年度から算数の研究を始めた。授業公開を行うことができた。 ○本年度は年間を通して一人の講師を招き、校内研究を進めた。学年ごとに全員が授業を公開し、同じ講師の助言を受けることで、課題を「自分ごと」としてとらえ、研究を始めることができた。 ●講師の助言をふまえた研究の積み重ねができなかった。 ○今年度から1～3年生も習熟度別学習を開始した。 ●習熟度別学習については、学年やクラスを分けてコース別に行うこともできたが、一人一人に合った方法などまだ課題が残る。 ●支援教育CO、国際教室担当がチームとして取り出し学習や入り込み支援を進める予定だったが、人員不足になり、きめ細やかな指導を行うことが難しかった。 ○GIGA端末を活用して、調べ学習を行った。 ○GIGAスクール構想、第3期に向けて、GIGA部会を中心に計画し、推進した。 ○委員活動では、映像を使って集会やお知らせを行うことができた。	○校内研究の教科や内容については、研究推進委員会を中心に決定するが、研究で確認することを教職員で共有する機会を増やしていきたい。 ○習熟度別学習については、児童一人一人に合わせ、丁寧に行う必要がある。効果的に活用できるよう、引き続き検討していきたい。

2	教育課程	<p>◎新教科書に対応した、学年ごとのカリキュラム、単元配列表等の作成</p> <p>◎行事や学習活動の見直し及び精選と教科、領域の目標や授業時数との整合</p>	<p>○新型コロナウイルスが5類に移行したため、多くの学年で校外学習・遠足的行事を積極的に行った。(1年動物園遠足、2年水族館遠足、3年まち探検、市内めぐり、4年水処理センター、6年都内めぐり、鎌倉校外学習)</p> <p>●校外学習では、大規模校ということで施設側の受け入れが難しいこともあり、新型コロナウイルス発生前のように実施することは難しかった。</p> <p>○学校行事についても、できる範囲ではあるが、各学年のめあてに沿った教育課程を実施することができた。また、PTA主催でフェスタを開き、児童や保護者から大変好評であった。</p> <p>○新型コロナウイルスが流行していた時期に工夫した参観の仕方や時期、活動内容を見直し、残すところと変更することを話し合っって行事を行うことができた。</p> <p>○キャリア教育「自分をつくる」では目標をたて、振り返ることで自分の成長に気付き、自己有用感を高めた。また、「わたしたちのまち川崎」では、掲示委員会が川崎の歴史を絵で表現し、階段に掲示した。</p> <p>○外部講師を招いて、情報モラル教育を行った。</p>	<p>○学年ごと、教科ごとのカリキュラムを活用して、ゆとりをもって作成できるようにしていきたい。教職員個人に頼るのではなく持続可能なものを探っていく。</p> <p>○児童の力をのばす機会となるよう、引き続きできる範囲で活動を広げていきたい。</p>
3	児童指導、児童支援	<p>◎一人一人に寄り添った児童指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を育成 ・いじめに対する児童の意識向上 <p>◎児童支援チームの編成と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童支援体制と役割の明確化 ・児童の見守り体制の充実 ・トラブル発生時の組織対応 	<p>○特別支援に関する教職員の共通理解を深めるために、実際の児童指導などで生かせるような研修を実施した。</p> <p>○子ども家庭センター、特別支援教育センター、教育相談センター等の関係諸機関と連絡を密にし、連携を強め、情報交換や面談等を行った。</p> <p>○管理職、教務主任、支援教育COなどによる校内の巡回、補教等を行い、学級の様子を把握するよう努めた。また、今年度からSCが来校し、保護者面談を行うことができた。</p> <p>○トラブル発生時の児童指導、保護者面談は、学年を中心とし、支援教育COや必要に応じて管理職も含めたチームで対応した。</p>	<p>○研修を行い、教職員が連携して対応できるようにしていく。</p>
4	特別支援教育	<p>◎特別支援教育の推進及び交流の在り方の検討</p>	<p>○特別支援学級の指導体制を見直し、合同授業を行ったり、学力に合わせて小集団での学習を行ったりした。</p> <p>●特別支援学級の指導体制については、個別学習が中心になっている。</p>	<p>○特別支援学級の授業のスタイルを改善し、児童一人一人の個別指導計画の目標に合致した授業を研究する。</p> <p>○特別支援学級と交流級の連携をさらに深め、両学級の担任の役割をより明確にしていきたい。</p>

5	児童の安全	<p>◎「ツイタもん」によるメール配信システムの連絡体制の周知と児童の安心安全見守りの充実</p> <p>◎津波を想定した避難訓練と、不審者対応訓練の計画実施</p>	<p>○PTA安全委員会を中心に、新入生保護者にもご協力いただき、登下校時の見守り活動を行ったことで、児童の安全確保に繋がった。</p> <p>○ICタグによる校門通過の記録が残ることで、防犯対策の一助となった。</p> <p>○支援教育COを中心に、管理職、級外の教職員で分担し、東門や昇降口で登校時の児童の見守りを行った。</p> <p>●不審者対応体制の周知と訓練を行うことができたが、津波を想定した避難訓練については、日程・天候の都合で実施を見送った。</p>	<p>○不審者対応体制については、引き続き確認を続けるとともに、津波を想定した避難体制についても教職員で共有し、児童に周知する。</p>
6	保護者地域との連携	<p>◎学校評価アンケートを生かした学校運営の推進</p> <p>◎地域、異校種間連携</p> <p>・地域の活力を生かした連携教育の推進</p>	<p>○児童、保護者、教職員のアンケートを昨年度に引き続き行い、学校運営に反映させた。</p> <p>○本年度も学校教育推進会議を開催し、学校関係者から直接意見を聞くことができた。</p> <p>○朝の見守り活動の取り組みにより、子どもたちに「地域の中で育っている。」という意識が生まれている。</p> <p>○本年度も地域教育会議の開催ができた。</p> <p>○授業公開を7回行い、個人面談(4月)教育相談(7月、9月、12月)を計4回行った。(4,6,9,11,1月は一般公開、5月は運動会、各学年の学習発表会)</p>	<p>○本年度も学校教育推進会議を3回開催することができた。来年度も引き続き、学校関係者にご来校いただける機会を設けたい。</p>
7	情報提供	<p>◎学校便りの発行</p> <p>◎民生委員・児童委員との情報交換会の開催</p> <p>◎メール配信システムの活用</p>	<p>○学校便りやHPを通じて、必要な情報を地域や保護者に提供するとともに、学校の教育方針を伝え、共通理解を図った。</p> <p>○授業参観を予定日に行うことができなかったクラスは、日程を組み直した。</p> <p>○保護者への連絡方法として、「ツイタもん」配信メールを利用する機会が増えた。そのことにより、配信をしっかりと読んでくださるご家庭が増えた。また、「ツイタもん」を活用することで、「ミマモルメ」への欠席連絡を確実にもらうことができた。</p>	<p>○紙のお便りが家庭に届きにくい状況から、メール配信のニーズが高まっている。学校評価アンケートにもご意見をいただいているので、情報提供の方法をHPからのデータ配信へ、段階を踏みながら変えていきたい。</p> <p>○動画配信については、迅速に対応できるように年度当初に承諾を得るなど、引き続き保護者の皆様の理解を求めていきたい。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>★委員さんの感想、ご意見</p> <p>【6年生の学習発表会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生の知っている子もいて熱心に取り組んでいる姿がよかった。 ・6年間育った子どもたちの姿や歌声を聞かせていただいたとてもよかった。人と会ったり人と関わったりすることは子どもたちにとってとてもいいこと。自分が体験することはよいことはよりよく、悪かったことはどう解決したらよいかを考える子になってほしい。 ・3年生の時からコロナになって、親としてもどのように育てていいかと不安に思った。子供が6年生になり、友達と関わって学習している場面を見て、嬉しかったのとこれからの成長も楽しんでいきたいと思った。 <p>【学校評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが明けて子どもたちが外で遊ぶようになり、子供の声が聞こえるようになり嬉しい。 ・学校評価では、子供が挨拶をしていないということだったが、子供も含めて自己評価をしないといけない。大人もよいお手本にならないといけないと感じた。 ・子供は挨拶をしていないということだったが、その子の個性があり、全ての子が同じではないので、一人一人の挨拶は違っていてもいいと思う。挨拶をして、返ってこなくてもいいのではないかと思う。 ・いろんな家庭環境があり、いろいろな子がいる中で学校がホッとできる場であってほしい。 ・子供の言葉遣いは、家庭での言葉遣いそのもの。食糧支援をしているが、言葉遣いがよくない子供もいるので、家庭での教育力も下がっているのではないかと思う。 ・場に応じた言葉遣いが大切だと思う。挨拶も言葉遣いも家庭の中で育つものだと思う。挨拶しても返ってこないのは、家庭で教育していかないといけない。 ・自分でできないことは子供に言ってもできないので、大人、親が自ら示すことが大事だと思う。「悪いことはしない、いいことはしましょう」 	<p>①教育課程、学習活動についての課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適切な授業時数の確保と学習指導要領の確認 ○校内研究の推進と授業力向上 ○習熟度別学習の内容の検討 ○ウィズコロナに対応した学校行事の検討 <p>②児童指導上の課題と児童支援の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常的な人権尊重教育の充実といじめ防止対策の推進 ○児童一人一人の特性の理解ときめ細やかな対応、保護者との連携 ○支援教育CO、学級担任の役割確認と担任の対応力向上 ○支援教育COを中心とした児童支援体制の充実 <p>③保護者・地域との連携と安全対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登下校時の見守り活動の継続 ○PTA組織の在り方の共通理解と活動内容の見直しによる負担軽減 ○防災に対する環境整備(備蓄品の整備、避難所運営会議等) <p>④働きやすい職場づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員が動きやすい校務分掌と発言しやすい環境づくり ○業務の効率化に向けた整備 ○校内研修の充実(児童理解、学級経営等) ○学年、校務分掌等の申し送り、引き継ぎ体制の整備